

群馬県立前橋高等学校 学校評価一覧表①

(令和4年度版)

(様式1)

※()は関連したアンケート項目に対する評価

No. 1

羅 針 盤			方 策		第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は90%以上である。	・学習活動及び部活動・生徒会活動等を充実し、生徒の満足度を高める。	A	A	全体の満足度は90%を超えている。今後も充実した教育活動を学校全体で進める。	A	A	学校生活全般についての満足度は高い。次年度もこのまま継続できるようにしたい。	
		② 「探究基礎」(1年)、「科学探究Ⅰ」「探究総合」(2年)、「科学探究Ⅱ」(3年)における活動を通じて自らテーマを見つけ、解決していく探究力が身についたと感じる生徒が80%以上である。	・課題設定や実証的な情報収集など、探究活動のスキル指導の充実を図る。	A	A	これまで実施してきた探究活動を各学年でブラッシュアップし、生徒にとってより適切な活動となるよう工夫を重ねている。	A	A	各学年とも課題研究の中間発表を2回設定することができた。そこでで計画、実験・調査、まとめ、発表の探究のサイクルを増やし、より質の高い活動を行うことができた。	
		③ 「イノベータ講演会」が探究活動の充実や活動意欲の向上に役立っていると感じる生徒が80%以上である。	・年に2回(4月、10月)、外部講師を招いた「イノベータ講演会」を開催し、意欲の向上を図る。	A	A	例年通り第1回の講演会は1年生を対象に実施し、探究活動を始めていく準備や心構えができるものとなった。	A	A	第2回は12月に1,2年生を対象に実施することができた。質問力を育成するプログラムで、より活発な講演会となった。	
		④ Oxbridge研修やその報告会およびその他のグローバル教育に関する活動を通じて、グローバル社会での生き方や異文化に対する理解が進んだ生徒が80%以上である。(1・2年のみ)	・Oxbridge研修参加者などグローバル教育活動の体験をさまざまな機会に共有させるよう努める。国際交流や国内・校内等での研修参加を促すよう努める。	B	A	昨年度の報告会については実施でき、1年生にとっては刺激を受けるものとなった。その他の今年度の活動については、あまり顕著なものが出ていない。	B	A	「Oxbridge研修」について今年度は代替行事も含め実施することができなかった。「Gunma youth Leader Program」には少人数ながら参加することとなった。	
II 生徒の意欲的な学習活動について、適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 工夫された授業が展開されており、授業に80%以上の生徒が満足している。	・ICTの活用やALの導入など、授業がより充実した双方向的な内容となるよう改善を図る。また、生徒の進路希望や適性に応じたクラス編成や授業展開を行う。	A	A	満足している割合は90%を越えている。授業アンケートもフィードバックし、さらに改善を図る。	A	A	アンケートの数値としては目標を十分達成しているが、さらに授業に工夫を重ね、生徒の能力を向上できるようにしたい。	
		② 英語や数学などの教科で行っている少人数授業や習熟度別授業に90%以上の生徒が満足している。	・クラス分けの方法や時期を工夫する。 ・小集団の特性に合った授業内容・指導方法で授業を行う。	A	A	全体としては90%を越えているが、2年生が若干低くなっている(84%)。内容や方法の検証を行う。	A	A	2年生も90%近くに向上した。今後も、クラス編成を工夫し、有効に活用を図りたい。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 生徒自ら考え、発表するなど、主体的な活動を行う生徒が80%以上である。	・発問内容・方法の工夫により学習意欲の向上とともに、協働的な学びを進める。 ・生徒が発表する場を意図的に増やす。	B	B	昨年よりは改善しているが75%程度。1年生で観点別評価も始まっているので、さらに呼びかけが必要。	B	B	第1回の結果からあまり変化はない。新教育課程が学年進行で進んでいるので、学校全体で再度意識を向上させたい。
			② 生徒が主体的に授業に取り組めるような授業改善のための研修会を各学年で年に2回以上と教科でも実施している。	・学年及び教科で計画的に研究授業、授業研究を実施する。	B	A	ICEルーブリック評価について職員研修をおこない、授業で取り入れてもらえるよう促した。	B	A	ICEルーブリック評価を取り入れた授業を今後も拡大し、新しい学習評価に関連付けられるよう生かしていく。
			③ 「土曜AL」の活動に参加し、主体的な学習に取り組もうとした生徒が70%以上である。(1・2年のみ)	・「土曜AL」の取組を確実に実施し、担任との連携を図りながら趣旨を理解させ、主体的な学習に向かわせる行動を促す。	B	B	より魅力のある講演会の開催や積極的に探究活動を進められる時間として活用させていく。	B	A	講演会への参加人数はそれほど多くはなかったが、課題研究に取り組むグループは多く見られた。限られた時間を活用する機会にはなっているようである。
			④ 英語等によるコミュニケーション能力が向上していると感じる生徒が80%以上である。	・AL型授業、外部英語検定(GTEC,英検等)受検、ディベート活動等を推進し、学校全体でコミュニケーション能力を向上させる意識を持つ。	B	B	ALTをさらに活用した授業を計画したり、スピーキングテストの回数を増やしたりして英語を使用する機会を持たせていく。	B	B	各教科にて授業で発表する機会を積極的に設けてもらうよう促すことも必要かと思うが、授業進度等を考慮すると難しい課題であるかもしれない。
	4 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	4 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	① 平均家庭学習時間を1・2年で3.0時間、3年で4.5時間以上確保して、予習と復習に努めている。	・SS科目において教科横断学習や探究活動を行う。	A	A	物理と数学、生物と英語の教科横断型授業を実施し、各教科の授業でもICE評価を取り入れた授業を実施している。引き続きこの流れを拡大させていく。	A	A	教科横断型の授業やICE評価を取り入れた授業など新しい試みを始めてもらい、効果的な点と改善すべき点を見極めながら「探究的な学び」につながる授業へ工夫していく。
			② 学校内での朝学習や放課後の自習室利用など、校内での主体的な学習に取り組む生徒が70%以上である。	・オリエンテーション等で家庭学習の大切さの理解を徹底させ、授業と家庭学習が一体となった学習活動を展開する。 ・学校に軸足を置いた学習が受験勉強の基本であることを理解させるための仕掛けを工夫する。 ・蛟龍館自習室の利用を勧める。	B	B	1学期の段階では目標に合う学習時間を確保できている生徒の割合はそれほど多くない。学習時間調査などを行って確認・刺激をしていく。	B	B	3年生は学習を確保できている者が多い。1・2年ではある程度の確保にとどまっている。平日3時間確保する生活の形態を紹介したい。
			③ 学年及び教科で計画的に研究授業、授業研究を実施する。	・学年と生徒指導部とが密接に連携し特活部等からの情報も共有しながら、生徒の理解を深め、早期の対応を図る。	A	A	蛟龍館自習室の利用者の満足度は高い。朝学習を行っている生徒はよい学習のリズムを作れている者が多い。	A	A	生徒は蛟龍館での学習を積極的にしている。3年生向け冬期集中学習会を今年度も実施することができた。
			④ 英語等によるコミュニケーション能力が向上していると感じる生徒が80%以上である。	・学年と生徒指導部とが密接に連携し特活部等からの情報も共有しながら、生徒の理解を深め、早期の対応を図る。	B	A	教育相談会議を隔週で行い、悩みを抱えている生徒の情報共有を行っている。又、学年会議において生徒の情報共有を行っている。	A	A	SCや通級指導の計画等を教育相談係会議で作成し、積極的な相談活動やチーム支援活動を実施することができた。
	III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 学年会議・生徒指導部会議・教育相談係会議において、生徒に関する情報交換を月に2回以上行っている。	・学年や担任を通して家庭との連携を図りながら、自律的な生活習慣を導いていく。	B	B	1学期中の欠席率は全体で1.4%であり、3年は2.5%であった。長欠者が増え始めている為、今後の対策が必要である。	A	A	遅刻・欠席の統計値において目標を達成している。学年と協力し遅刻常習者指導の連携を行うことができた。来年度も継続して行っていく。
			② 学校全体で、挨拶運動や規律遵守に取り組んでいる。	・学年や特活部と連携し、生徒職員が一体となって、自主的・自律的精神に基づいた活気のある学校作りを行う。	A	A	各学年と連携し登校指導を行っている成果が、保護者アンケートでの高評価につながっている。自主自立精神を伸ばす活動を心がける。	A	A	学校評価アンケートでは90%の生徒保護者から評価されている。マナーアップ等の活動を通して活気ある学校づくりを行う。
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 遅刻をする生徒が、全校平均で1日あたり10名以下である。また、欠席率は1%以内(3年生は2%以内)である。	・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。	A	A	部活動紹介から部編成までの期日を例年よりも延ばすことで、体験の機会を多く設け、部活動加入の意識づけをした。	B	B	実人数部活動加入率は90.7%であった。関東大会には体育部6部、学芸部1部が、全国大会には体育部4部、学芸部2部が出場した。
			② 学校全体で、挨拶運動や規律遵守に取り組んでいる。	・練習計画の作成等に生徒の意見を積極的に取り入れたり、達成感を味わえる場面を設定したりする。	A	A	常に生徒と情報共有をし、目標設定や練習計画に反映させることで、生徒の主体性を引き出している。	A	A	生徒の意思を尊重するだけでなく、行動に責任を持たせることで、人格形成の一助とする。
			③ 部活動に取り組む生徒のうち、文武両道を実践していると感じている生徒が70%以上である。	・学校の部活動運営方針に則した活動により、生徒の学習時間を確保する。	A	A	学習時間を確保するため、効率的な部活動運営を心がける。	A	A	多くの部活動が、試験前だけでなく、週2日以上以上の休養日を設けるなど、部活と学習の切り替えを意識させることができた。
			④ 定期戦及び優曇華をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。	・行事等の活動に対して、生徒自身の自主的自律的な活動を促し、達成感や存在感が感じられるようにする。	A	A	文化祭では、入場システムの構築や接客など、観客を歓迎するための工夫随所に見られた。	A	A	コロナ禍での行事運営ノウハウは蓄積されてきた。一方で伝統が途切れることのないように通常開催についての情報伝達も十分に行う。

群馬県立前橋高等学校 学校評価一覧表①

(令和4年度版)

※()は関連したアンケート項目に対する評価

No. 2

(様式1)

羅 針 盤			方 策		第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
	8 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	① 本校の「スマホ利用ルール」を理解し、それに従った生活ができている生徒が80%以上である。 ② 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると考えている生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームや学年集会、講話等の機会を捉え、指導を徹底する。 人権教育やいじめ防止への啓発活動に加え、いじめに関するアンケートを各学期に行い、実態把握から対応まで計画的・組織的に行う。 		B	B	「スマホ利用ルール」を理解している生徒88%、保護者74%、職員67%であり、今後の利用について検討が必要。	B	A	「スマホ利用ルール」を理解している生徒は、88%であった。今後風紀委員会を通して自主的な取り組みを促す。
	9 読書指導が行われていますか。	① 学校図書館の貸出冊数が7,000冊を超えている。	<ul style="list-style-type: none"> 国語科をはじめ各教科と協力し、貸出冊数の増加を目指す。図書委員会の活動をより積極的なものとし、企画展やビブリオバトル等を通じて図書館利用を促す。 		B	B	国語科の協力や「適書150選」の発行などで貸し出し数は確実に伸びているが、目標には達していない。	B	B	「適書150選」の発行、図書館講演会と図書購入会の再開、新規で各クラスへの主張貸し出し、図書館前の展示など、様々な工夫を行った。来年度も継続したい。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	① 進路に関するLHRを各学年で年に10回以上実施し、80%以上の生徒が進路選択の参考になると認識している。	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部が年度当初に3年間を見据えた指導計画の大枠を提示する。 		A	A	進路に関するLHRは計画に準じて順調に実施されている。生徒も進路選択の参考にしている。	A	A	生徒はLHRにおいて進路に関する刺激を受けている。概ね保護者にも好意的に受け止められている。
		② 「前高ジャーナル」、「進路概況」や「進学の手引」を、80%以上の生徒が役に立つと認識している。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの指導のノウハウを継承しながら、さまざまな場面で資料を有効活用する。 		A	A	刊行物は予定通りに発行完了。特に「進学の手引き」はLHR等でも有効活用されており、生徒も大いに参考にしている。	A	A	保護者の進路に関する刊行物の認知が7月から向上している。
		③ 大学・企業・研究所研修、インターシップ等のキャリア教育行事に満足している生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路意識・職業意識を高める進路行事を進路指導部・探究部と学年が連携して計画・立案し、実施する。 		A	A	3年ぶりにインターシップ、大学見学を実施した。参加希望生徒も多数あった。感染症の影響で大学の受け入れにまだ制限があった。	A	A	行事等取り組み体する満足度は高い。体験活動に対する意識の高い生徒もあり期待にしていきたい。
11 生徒は自らの進路希望について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	11 生徒は自らの進路希望について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	① 早朝補習や長期休業中の補習授業が、進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じて作成する年間指導計画に基づいて実施する。 		A	A	夏期補習Ⅲ期では新型コロナウイルス感染症第7波の影響があった。Ⅰ期Ⅱ期は感染拡大の影響が少なく充実していた。	A	A	多くの生徒が補習に意義を感じている。保護者は特に補習の実施に好意的である。
		② 夏季休業中の学習合宿に参加した生徒のうち、学習合宿が進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 前年度までの総括をもとに、学習合宿実施の意義に見合った時期・場所・内容等の検討を行う。 		A	A	3年ぶりに学習合宿を行うことができた。感染症対策を行いながら参加生徒は自学に励んだ。参加生徒のこの行事の評価は極めて高い。	A	A	次年度予約済み。安定的な運営を心がけたい。
		③ 生徒のより高い進路目標の実現を目指し、生徒の大学合格率が80%以上、大学進学率が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 納得のいく進路選択ができるよう適切な情報を提供するとともに、同じ志を持つ生徒同士の相互作用をうまく誘導する。 		未		(新しい入試に向けて取り組んでいる)			(新しい入試に向けて取り組んでいる)
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的な情報発信をしていますか。	① 「前高Web page」の内容について、満足している保護者が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等の記事など、新しい情報をタイムリーに発信する。部活動の顧問にWebページの更新を促す。 		A	A	「今日の前高」で学校の様子を紹介するなど、今後も更新頻度を上げていく。	A	A	少しずつであるが、向上傾向にある。今後も保護者に見てもらえるよう工夫したい。
		② 学校通信「前高通信」などによる学校からの情報提供に満足している生徒・保護者が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 行事ごとの記録や、各分掌・学年・部活動の情報収集を行い、年間6号の発刊を行う。 		A	A	「前高通信」はこれまでに3号発行している。紙媒体による配付ではなく、PDFでの配信にするなど変更した。	A	A	高い評価をいただいている。今年度「前高通信」は5号発刊した。今後もタイムリーに保護者に学校の様子を伝えたい。
13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	① 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年に2回以上実施している。	<ul style="list-style-type: none"> P T A・母の会等との連携を密にして、講師の選定を行う。P T A新聞作成に当たり、保護者役員の制作活動や情報収集をサポートする。 		A	A	科学探究の講師に保護者を迎えたり、PTAの情報発信には協力をしている。	A	A	科学探究の講師に保護者を迎えることができた。来年度は探究部と連携をとって、保護者や地域の方を講師として招請したい。
		② 規範意識と危険回避能力を高める指導を行い、自転車事故15件以下を目指して指導する。 ③ 安心・安全な自転車利用のためには、自転車保険の加入やヘルメット着用が必要であると自覚している生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 交通法規やマナーの徹底に加え、余裕を持った早朝登校や、大通りを利用したの通学など、事故に遭いにくい通学を促す。 		B	A	8月末で16件の交通事故報告があり、1年生が9件である。LHRで危険箇所を周知し安全対策指導を行う。	A	A	交通安全の取り組みに対して評価している生徒が96%である。自転車事故減少に向け指導を行っていく。
			<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室の形態・指導内容等を前橋高校の現状に合ったものになるように工夫すると共に生徒会役員や風紀委員会を中心に自発的活動を促す。 		B	A	交通安全教室の形態・指導内容等を前橋高校の現状に合ったものになるように工夫すると共に生徒会役員や風紀委員会を中心に自発的活動を促す。	A	A	県教委主催のサイクルサミットに参加した生徒から、全校集会で事故防止に関しての自主活動を行うことができた。
15 環境面で生徒の安全が確保されていますか。	15 環境面で生徒の安全が確保されていますか。	① 災害発生時に適切な行動をとることができると自覚している生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月安全点検を実施し、施設的に問題の改善に努める。 他分掌と連携し、水害時の緊急時使用マニュアルを周知する。 年2回の防災避難訓練の実施と、浸水時を含めた防災マニュアルの周知により、災害発生時に職員・生徒が適切な対応をできるようにする。 		A	A	毎月の安全点検を実施し、施設の安全確認を行っている。 第1回の防災訓練の中で火災時の対応を行い、生徒は速やかな避難行動ができた。教室が1階にある1年生は洪水時の水害を想定し、3階4階への垂直避難訓練を行った。	A	A	2回の避難訓練共に生徒は真剣に取り組めたが、さらに災害時における自分がなすべき行動について、マイタイムラインなどの考え方の紹介を行い、さらに生徒の防災意識を高めていきたい。また、コロナウイルス感染防止対策も行いながら、防災に対する環境の整備もさらに深めていきたい。
			16 保健面で生徒の健康が確保されていますか。	① 健康面で安心感があると、80%以上の生徒が回答している。	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会活動(保健だより等)により、感染症・健康に関する情報を発信する。感染対策として、消毒用エタノールボトルや手洗い用石鹸等を常時用意する。 		B	A	保健委員が作製した保健だより等も利用し、感染防止対策を連絡している。として、マスクの着用の徹底や石けんによる手洗い、消毒、三密回避を呼びかけ、生徒も実践できてきている。	B
VII 教育のデジタル化に努めていますか。	17 ICTを活用した指導を行っていますか。	① 授業等でICTを活用した指導を行っている教員が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した新たな教材や学習活動を積極的に取り入れる。 ICTの効果的な活用に関する校内研修を行う。 		A	A	80%には達している。今後も活用事例の紹介や研修を行い、活用を進める。	A	A	継続的に有効活用できるようにしたい。職員研修も今後実施を検討している。
			18 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	① ICTを活用することで、分掌業務等の改善を進めている教員が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 各種調査や連絡等でgoogle classroomなどの利用を図る。 資料や情報の蓄積をデジタルデータ化する。 		A	A	90%がICT活用による改善を行っている。今後も働き方改革を踏まえて活用を進める。	A